

防衛しとて是を小諸軍と殺さん事。傷ましくはらまじや。早く城を圍むを至る。
 大將をいぬれば卒を。残りを助命相違なく一系首小歸らせたまひ。
 累て武器を竭しつゝるを。勝利をたすむらむを。信長深く大將の漸挙動
 を感佩し。戦死し玉はん事と信。初に意し贈らむと。漢る小系恒重を
 如何さぬ命越すや。今も殺軍も常果防戦の膂力もあつし我候が命を
 たも右も罪なれば殺軍と殺さんこと。いふも不便な候。まはしうて命小隨ひ
 當城を圍れ申し。と懇懇小返言せし。本下この義を本陣へ言はせ。これ小
 ようて四方の攻路。陣とせし好邊うめ本下最吉舟の諸侍を。警備と稱
 して之を合せ城中の殺軍と先小をせ。次第々々小歩出く。撤兵の大いふは情
 味。我者らとと退をせり。然して後小朝倉系恒正人計の從者を。異
 審く然と退城し。はまは秀吉程く。澁川左近衛山田とた集つて二人小合

が勝を請百せ目ましく自勝を引分て。其百余人を最後小未せ。系恒主從を
 中復させて府中の邊まで送らせし。實小は情あり。奉止ありと感ぜぬ
 軍こそなかりけれ。其後會う勝の故

繪本豊臣勲功記三編卷之五 終